

診断後の家族を対象とした研修会

北九州市発達障害者支援センター
「つばさ」

本日の内容

- 1 北九州市について
- 2 つばさにおける家族教室の経緯
- 3 診断後の家族を対象とした研修会について
- 4 おわりに

1 北九州市について

① 概要

- 人口：約98万人（政令指定都市）面積：487.9Km²
関門海峡に面し、九州最北端に位置する。
- 出生数：8302人（2010年）



1 北九州市について

②北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

平成15年10月22日開所

(附置施設:北九州市立総合療育センター)



2 つばさにおける家族教室の経緯

①知的障害を伴わない発達障害者をもつ家族を対象とした研修会

- 知的障害を伴う発達障害者をもつ家族は、つばさが開所前も研修機会が多かった。それと比べると、知的障害を伴わない発達障害者をもつ家族は研修機会が少なく、また、家族自身が対応方法が分からずに困っている場合が多かった。



知的障害を伴わない発達障害者をもつ家族を対象とした研修会へ

2 つばさにおける家族教室の経緯

②研修会の概要

- 1回の開催時間は、2時間半から3時間
- 学齢期(幼児期～中学生)と成人期(15歳以上)に分けて実施
- 本人の年齢は、4歳から40歳代
- 場所は、北九州市立総合療育センター(つばさの附置施設)の研修室で実施。参加人数は11～15人(合同時最大は23人)
- 成人期の保護者の中には、数組両親での参加があった

2 つばさにおける家族教室の経緯

③研修会の運営方法

- 1 つばさにすでに相談がある、知的障害を伴わない発達障害者の家族対象とする。
- 2 対象となる家族全員に案内文を送付し、出欠の有無を確認する。
- 3 参加する家族から、テーマに沿って事前に用紙に記入・返信してもらう本人のケース概要をまとめたシートと上記の用紙をファイリングする。
- 4 研修会当日は、SVとつばさスタッフと打ち合わせを行う。参加者からアンケートを基に、次回以降のテーマや方法改善等を話し合う。
- 5 参加者了承のもと、ICレコーダーで研修会の内容を録音し、個人が特できないように配慮して、ニュースレターを作成・送付する。

2 つばさにおける家族教室の経緯

④研修会のテーマ

年度	学齢期	成人期
H16	SVより講義、質疑応答	
	事前に質問用紙を受付け、SVより助言	
	「困っている3つのこと」、「成功した3つのこと」	
H17	子育ての中で大切にしていること	望まれる社会資源
	生きる力を身につけるために	家族の役割
H18	①勉強会に参加して、対応や考え方に变化したこと ②学校との連携	
	子どもさんの目標について	「親の目標」または「ご本人の目標」
H19	親自身が、心と身体 of 健康維持に心がけていること	
	子どもの気持ちを引き出すために、日頃から心がけていること	ご本人とよりよい関係を保つために、心がけていること
H20	①事例報告 ②勉強会に参加して、子どもや家族が变化したこと	ご本人への対応で成功したことや失敗したこと
	①事例報告 ②進級や進学に向けて、心配なこと、準備していること	「こんなサポートがあったら」ということ

2 つばさにおける家族教室の経緯

⑤研修会の成果と課題

成果

- ・ SVの助言や他の家族の話を聞くことによって、発達障害に関する知識や理解を深めることができた。
- ・ 社会資源の情報や制度を知ることができ、今後の参考になった。
- ・ 同じ悩みを持つ家族が集まることによって、「一人ではない」と心強くなった。

課題

- ・ 年に2回なので、回数を増やしてほしいという意見が多い。
- ・ 二次障害が重篤な方(特に成人期)等対応困難ケースの家族に対する支援のあり方を探ることが必要である。
- ・ 継続して参加している家族と、診断された後の年数が経っていない家族がおり、理解に差があるため、対応が難しい場合がある。



基本的な理解と対応方法の研修会が必要

3 診断後の家族を対象とした研修会について

① 家族支援事業の必要性



3 診断後の家族を対象とした研修会について

②診断後の家族を対象とした研修会 (フレッシュコース)のねらい

- 発達障害と診断されて間もない時期の家族に対して、
 - ① 基本的な理解と対応方法を学ぶことによって、今までの対応を変容し、円滑な家族関係を築く一助とする。
 - ② 地域の社会資源に関する情報提供を行う。
 - ③ 同じ悩みをもつ家族同士の出会いを通して、家族が自信を取り戻す。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

③家族研修会(フレッシュコース)の概要

- つばさが関わっている、診断されて間もない時期(1年以内)あるいは、各担当者が必要と思われた発達障害児者をもつ家族を対象とする。
- 場所は、総合療育センター研修室にて実施する。
- 3回を1クールとし、年間3クール実施する。
- つばさでは、成人期の方で診断に関する相談が多かったため、

1回目(6月～8月)	成人期
2回目(9月～11月)	高校生以下
3回目(1月～3月)	成人期

とした。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

③家族研修会(フレッシュコース)の概要

回	時間	テーマ
1	10:00～ 12:00	発達障害について
2	10:00～ 12:00	対応方法について
3	10:00～ 12:00	意見交換会

☆ 3回目の座談会では、当日用紙に「皆さんに聞きたいこと」を記入してもらい、自己紹介後(名前と現在の状況について簡単に説明)、司会者が共通する項目に沿って、意見交換を進めていく。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

④フレッシュコース 1クール目：成人期

研修会案内先数：40家族

申し込み数：33家族

参加数：26家族

ご本人について

性別	男性：11人 女性：15人
年代	10代：3人 20代：8人 30代：12人 40代：3人
所属	在宅：12人 就労継続B型：3人 就労継続A型：2人 障害者枠で就労：2人 アルバイト：2人 専門学校：2人 入院中：1人
診断名	広汎性発達障害：5人 高機能自閉症：9人 自閉症：5人 アスペルガー症候群：6人 ADHD：1人
手帳	なし：10人 精神3級：2人 精神2級：8人 療育B2：5人 療育B1：1人
年金	あり：6人 なし：20人
精神科通院	あり：15人 なし：11人
入院経験	あり：6人 なし：20人
服薬	あり：13人 なし：13人

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑤フレッシュコース2クール目：高校生以下

研修会案内先数：24家族

申し込み数：9家族

参加数：8家族

ご本人について	
性別	男性：6人 女性：2人
年代	小学生：3人 中学生：1人 高校生：4人
所属	通常学級：7人 情緒学級：1人
診断名	広汎性発達障害：3人 高機能自閉症：3人 アスペルガー症候群：1人 未受診：1人
手帳	なし：8人
精神科通院	あり：3人 なし：5人
服薬	あり：3人 なし：5人

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑥フレッシュコース 参加家族

- 成人期：40代～60代（3家族は両親で参加）
家族の状況：両親共に、無職、就労中、時々アルバイト
- 高校生以下：20代～40代
家族の状況：父親は就労中、母親は無職よりも就労中の方が多い

3 診断後の家族を対象とした研修会について ⑦講義についてのアンケート結果より

- 「理解できた」「少し理解できた」がほとんどであった。
- しかし、「ことばが理解できず、難しかった」「講義を聞いても、対応方法が分からなかった」という意見もあった。



特に成人期の家族に対しては、年齢的な面も考慮しながら、より分かりやすいことば・説明をすることが必要。また、事例を多く取り入れるなどの工夫が必要。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑧意見交換会 家族から「皆さんに聞きたいこと」

(成人期)

- 部屋の片づけができない。
- 金銭管理ができていない。(金遣いが荒い)
- 自分の意見が通らないと、激昂するので困る。
- 親が言うことに反抗的で困る。
- 親が高齢なので、将来の生活が不安。
- 父親と本人との関係が悪く、改善しない。
- 自立できるのだろうか。
- 仕事が定着しない。
- 携帯ゲームの依存症になっている。

(高校生以下)

- 部屋の片づけができない。
- 物事の順序立て・計画・実行ができない。
- 日常生活スキルが発達していない。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑨フレッシュコース1クール目：成人期意見交換会にて

家族が

「今までに、効果的だった関わりや上手くいったこと」

- 他者（支援者）が関わることで、自分を客観的に見るようになり、親も余裕をもってみられるようになった。
- 診断後、命令的・否定的な言い方をしないように心がけたところ、少しは穏やかになった。
- 親の方から本人に話しかけるようにしたところ、以前よりも明るくなった。
- 本人の話をよく聞くようにした。
- 親が落ち着いて笑顔を見せるようにすると、本人も応じるようになった。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑩フレッシュコース 1クール目:成人期意見交換会のアンケートより

- 皆さんの接し方等対応方法が聞けてよかった。
- 他の家族の悩みを聞き、励みになった。
- 家族の話しは、多面的で本当に有難い。
- 今後もこのような研修会に参加したい。
- このような場がほしかった。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑪フレッシュコース 成果と課題

成果

- ・ 基本的な理解と対応方法を学ぶことによって、本人への見方や対応を少し変えることができた。
- ・ 他の家族の対応方法を聞くことは、これからの対応の参考になった。
- ・ 他の家族との出会いは、孤立感を軽減し、家族の自信を取り戻す一助になった。

3 診断後の家族を対象とした研修会について

⑪フレッシュコース 成果と課題

課題

- ・ 全体的な講義のみでは、個別的な課題の解決策とはならないため、学習と共に個別相談を行うことが必要である。
- ・ 同じ悩みを持つ家族の集まりであるため、良いモデルがない。そのため、意見交換会には、良いモデルとなる先輩家族の参加が望まれる。

3 診断後の家族を対象とした研修会について 今後に向けて

- 3回の研修会のみでは、家族が本人を理解することや家族を支える仕組みとしては不十分であるため、今後の拡充（継続的な学びの場、あるいは交流の場など）が望まれる。
- 本人を支える仕組みと共に、家族を支える仕組みを、地域で構築していくことが必要である。その入り口として、フレッシュコースは有効であると考えられる。

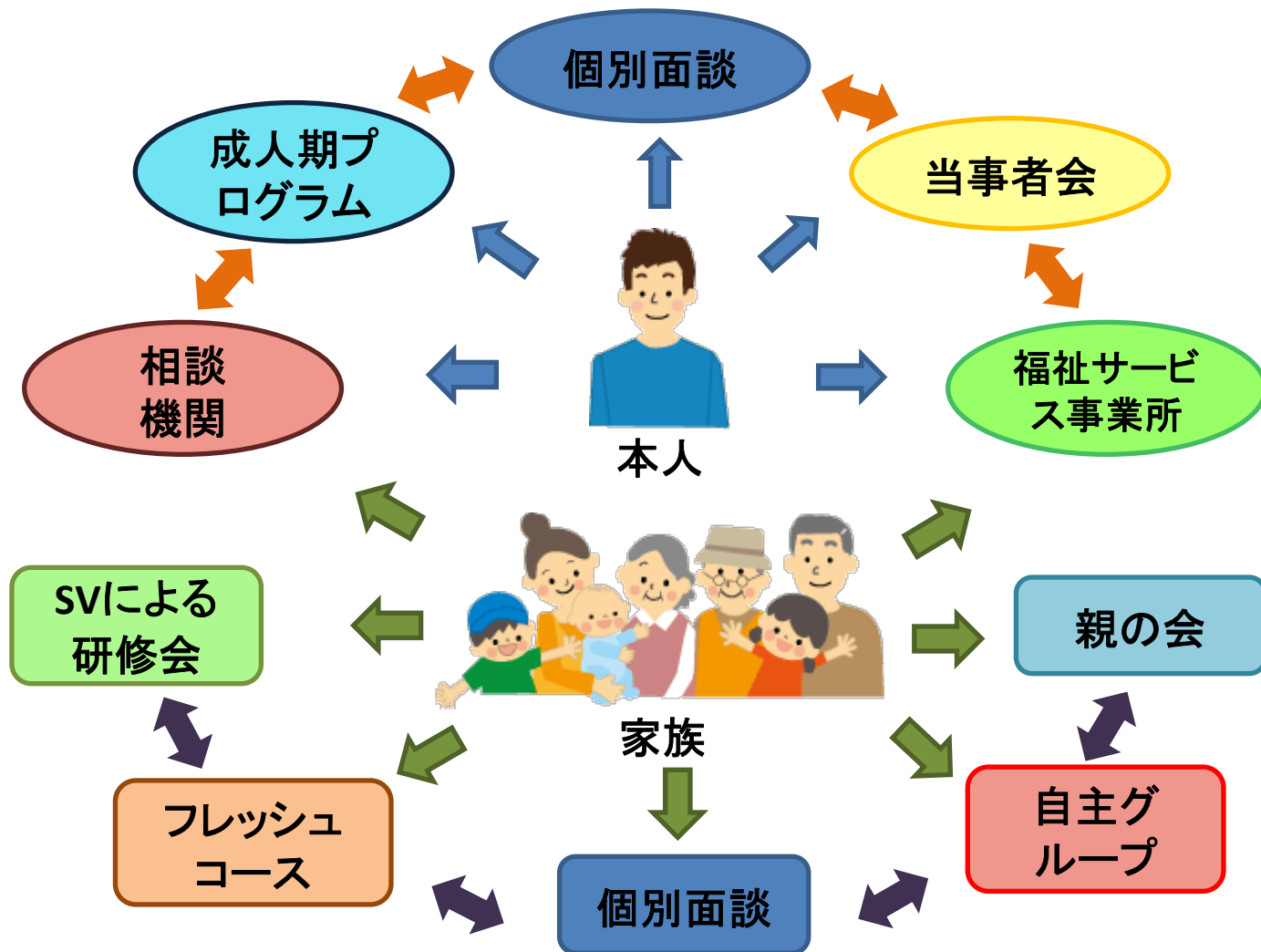
4 おわりに

①その他の取り組みとして

ペアレント・メンター 養成事業	平成24年度～取り組み開始 北九州市発達障害者支援体制整備検討委員会にて協議 親の会4団体に事前説明会実施 ペアレント・メンター養成講座 基礎研修 フォローアップ研修 基礎研修参加者14名
SVによる 家族研修会	対象者：つばさに継続相談がある知的障害を伴わない発達障害者をもつ家族。
成人期の生活支援 等プログラム	本人がつばさに定期的に来所し、軽作業を1～2時間程度行う。 対象者：在宅の発達障害者の方
成人期当事者会 (ソーシャルクラブ)	平成20年よりスタート 対象者：つばさに継続相談している、知的障害を伴わない発達障害者 活動：余暇活動、話し合い活動等が中心

4 おわりに

②支援の展開(イメージ図)



4 おわりに

③その他の取り組みとして

関係機関と行政との連携

関係機関

発達障害者
支援センター

総合療育
センター

しごとサポートセンター

基幹相談
支援センター

親の会

等

北九州市発達障害担当ライン (H24. 4~)

障害福祉課

子育て支援課

保育課

子ども総合センター

特別支援教育課



連
携



※行政の壁を取り払い
発達障害施策を統括
するラインを設置

課長・係長
が兼務



ご清聴ありがとうございました